

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(平成30年9月分)

平成30年10月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

(2) エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

イ スルプスカ共和国(RS)

ウ ブルチュコ特別区

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構 (EU加盟プロセスを含む)

(2) 二国間関係

3. 経済

(1) 経済政策、公共事業

(2) 経済協力

(3) 民間セクター

(注: 以下は、現地紙など公開情報を取りまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

● BH裁判所、2015年判決をめぐるRSのITAへの強制執行を差し止める決定(3日)

3日、BH裁判所は、BH連邦との間での債務に起因する損害をめぐるRSが間接税庁(ITA)を訴えた問題で、同裁判所が右訴えを認めた2015年判決の強制執行を差し止める旨決定。RSは、本年5月より、2015年の判決を根拠として、RS内の銀行にあるITAの口座を凍結、右債務を回収する強制執行を実施していた。

● クロアチア系の政治指導者、クロアチア系有権者に投票を呼びかけ(6日)

6日、クロアチア民族評議会(HNS)会合の後、チョービッチHNS議長(HDZ党首及び大統領評議会クロアチア系メンバー)とリュビッチHNS執行委員会委員長は公開書簡を発表し、クロアチア系のBH国内及び在外有権者に投票を呼びかけた他、BH選挙法改正問題をめぐりボシュニャク系政党の行動を非難すると共に、自民族以外の得票により構成民族の代表に選出された者は違法であると述べ、大統領評議会クロアチア系メンバー選挙におけるコムシッチ候補を暗に、しかし強く批判した。

● 選挙運動期間の開始(7日)

7日、中央選挙管理委員会(CEC)は、10月7日の国政選挙に向けた選挙運動期間の

開始を宣言した。右期間は10月5日の19時をもって終了予定。

開始された選挙運動においては、RS大統領候補のゴベダリツァSDS党首が、SDSの創設者であるカラジッチICTY/MICT被告に自分を準えて発言したり、BH大統領評議会セルビア系メンバー候補のドディックSNSD党首・RS大統領が、SNSDに投票すれば年金受給者は近いうちに年金の増額があるが、野党に投票した者は受け取ることが出来ないと脅迫めいた発言をする等、選挙法違反と見受けられる事態も発生しており、26日には、トランスパレンシー・インターナショナルBH(腐敗監視NGO)が、一連の選挙法違反の告訴状を関連当局に提出した。

また、19日にはCECが、150名以上の人々が、BH在住にも拘わらず本人の認識なしに在外投票に登録されていた事案等、有権者登録をめぐる不正事案をBH検察庁に提出した旨を発表した。

●米国、シュピリッチSNSD副党首に対する制裁を発動(10日)

10日、米国内務省は、シュピリッチSNSD副党首・BH議会下院議員とその家族に対して、重大な腐敗に加担して私利を肥やしているとして、自国への入国禁止措置を発表した。

●刑事訴訟法改正法が成立(17日)

11日、BH議会上院が、また17日には、同下院が、満場一致でBH刑事訴訟法改正法案を採択し、同改正法が成立。同法は、BH憲法裁判所の違憲判決を受け改正が急がれながら、SDA(ボシュニャク系)とHDZ(クロアチア系)が対立して合意できずにいたが、国際社会を仲介役とした政治交渉により、SDA案に

クロアチア系及びセルビア系議員の修正を付すことで合意が成立し、10月の国政選挙前に採択された。

●難民・移民の入国数はようやく減少傾向(21日)

21日、BH閣僚評議会会合において、BH治安省が、難民・移民問題に関する最新の状況を報告。メクティッチ治安相は、最近の入国数はようやく減少傾向に転じたものの、引き続き厳重監視と収容施設の確保に努める必要性がある旨述べた。なお、2018年1月1日から9月23日までの難民・移民に関するBH入国者数は15,116名で、うち1,500~2,000名がBHに滞留中。

(2)エンティティ、特別区

ア ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●退役軍人によるデモの激化(5日)

退役軍人の権利向上を訴えた継続的な抗議運動を受け、両院で一部異なる内容でBH連邦議会が採択した退役軍人及び同家族の権利法案に関し、最終成立に向けて必要な両院案の内容調整作業を意図的に遅らせていたBH連邦の政府及び議会に対し、5日、再び退役軍人がBH連邦議会ビルの前で抗議運動を実施。その後、警官隊と衝突して催涙ガスが使用される大規模デモに発展した。

●BH連邦議会の選挙区及び議員定数法案の審議ならず(27日)

27日、BH連邦議会上院は、懸案となっているBH連邦議会の選挙区及び議員定数法案の協議を緊急審議手続きにて試みたものの、投票に当たり右法案に関し対立する勢力が民族の死活的利益(VNI)をめぐる相異なる議

会規則を主張し、各々に行使したため混乱。
結局、結果が不透明なまま散会となった。

イ スルプスカ共和国(RS)

●ドディック大統領、西側諸国のBHへの干渉を非難(1日)

1日、ドディックRS大統領は、RS公共放送のインタビューに対して、自分が大統領評議会メンバーに当選した暁には、移民を国外追放することで同問題を解決する旨、またRSの独立は今でも自分の政治目標であり、それを隠してもいないが、RSの独立をめぐる現在の事情はよく理解している旨、またBHでは、外国の大使が意思決定を行う「大使政治」と呼ぶべき新しいシステムが構築されてしまっている旨述べた。

●記者襲撃事件容疑者の逮捕(10日)

10日、RS警察は、8月26日に発生した親野党系放送局に勤め、最近反政府デモについてよく取材していた記者が何者かに襲撃された事件に関し、容疑者の逮捕を発表したが、容疑者の政治的動機は確認できていないとして否定。なお、報道によれば、容疑者はドディックRS大統領の側近の息子がオーナーを務める格闘技クラブのメンバーであり、ボクサー資格を持つ男性。

●青年の不審死をめぐる抗議運動と検察による警察官の起訴(10日)

10日、バニャ・ルーカ地方検察局は、3月末に同市近郊で発生し、その不十分な捜査をめぐり長期間抗議運動が続いている青年の不審死に関し、2名の警察官を証拠改ざん容疑で起訴。ルカチュRS内相は、証拠改ざんは犯罪隠蔽の為ではなく、職務怠慢によるものと

発言した。

なお、抗議運動側は、警察官とRS内務省職員が青年を殺害したと主張して同運動を継続しており、19日、彼らの逮捕期限を25日と定め、この期限が守られない場合には、一歩踏み込んだ行動に出ると表明した。

●RS憲法裁、スレブレニツァに関するRS政府報告書の撤回をめぐるVNIを棄却(24日)

24日、RS憲法裁判所の民族の死活的利益(VNI)パネルは、8月14日にRS国民議会が、2004年にRS政府が組織した委員会が調査し、ボシュニャク系7,779名の殺害を認めたスレブレニツァに関するRS政府報告書を拒否する決議を全セルビア系政党の賛成により採択したことに対し、RS民族評議会のボシュニャク系議員団が申し立てたVNIの侵害を、本問題は司法行為ではなく政治行為であり法的拘束力がないとして棄却した。

ウ ブルチュコ特別区

●駐BH外交団の年次会合を開催(3日)

3日、ブルチュコ特別区において、ツルナダクBH外相が、駐BH外交団の代表者を招いて年次会合を主催。当館からは坂本大使が出席した。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●南東欧協カプロセス非公式外相会合の実施(5日)

5日、バニャ・ルーカ市において、ツルナダクBH外相主催により南東欧協カプロセス(SE ECP)の非公式外相会合が開催され、セルビ

ア、クロアチア、モンテネグロの外相等が出席した。なお、ドディックRS大統領が、BHはコンボを国家承認しておらずRSは同国外相の参加を歓迎しないとしてツルナダク外相を非難したことにより、コンボ外相は同会合への参加を取り止めた。

●ベネルクス三国外相のBH訪問(13日)

13日、ベネルクス三国から、レンデルス・ベルギー副首相兼外相、ブロック・オランダ外相及びアセルボーン・ルクセンブルク外相がBHを訪問し、BH大統領評議会のイゼトベゴビッチ議長(ボシュニャク系)とイバニッチ・メンバー(セルビア系)、及び、ツルナダク外相と会談を行い、BHのEU加盟プロセスや改革について意見交換を行った。

●イゼトベゴビッチ大統領評議会議長、国連総会で演説(25日)

25日、イゼトベゴビッチBH大統領評議会議長は、第73回国連総会に出席して演説を行い、紛争解決、テロとの闘い及び2030アジェンダの達成に向けては、国連等を通じたグローバル協力や地域間協力が不可欠であると指摘。BHは西バルカンにおける協力体制の構築に協力的かつ推進的である旨述べた。

なお、同議長は、国連総会出席のためのニューヨーク滞在中に、グテーレス国連事務総長やソルベルク・ノルウェー首相と会談を行い、BHの政情や欧州大西洋統合プロセスにつき意見交換を行った。また、同議長に同行したツルナダクBH外相は、ハーン欧州近隣政策・拡大交渉担当欧州委員とモゲリーニEU外交安全保障政策上級代表がそれぞれ別個に開催した西バルカン諸国の外相会合に出席した。

(2) 二国間関係

●ドディックRS大統領とダッチ・セルビア外相との会談(5日)

5日、南東欧協力プロセス非公式外相会合出席のためバニャ・ルーカを訪問したダッチ・セルビア外相は、ドディックRS大統領とも会談を行い、BH・セルビア関係及びRS・セルビア関係につき意見交換を行った。なお、同日は、ゴイコビッチ議長率いるセルビア議会代表団もバニャ・ルーカを訪問し、ドディックRS大統領及びチュブリロビッチRS国民議会議長と会談を行った。

●クロアチア、リブノに領事館を開館(5日)

5日、クロアチアはBH連邦カントン10のリブノにBHで5館目となる同国の領事館を新たに開館。開館セレモニーには、チョービッチBH大統領評議会クロアチア系メンバーの他、プレコビッチ・クロアチア首相が参加した。

●ズビズディッチ閣僚評議会議長のモロッコ訪問(17~18日)

17~18日、ズビズディッチBH閣僚評議会議長がモロッコを公式訪問し、オスマーニ首相との間で、経済関係の強化等につき話し合った。

●ラブロフ露外相のBH訪問(21日)

21日、ラブロフ露外相がBHを訪問し、サラエボにおいてBH大統領評議会及びツルナダクBH外相と個別に会談し2国間関係等につき意見交換を行った。その後、同外相はバニャ・ルーカに移動し、建設途中のセルビア・露正教会センターを訪問した他、ドディックRS大統領等と会談を行った。

●ブチッチ・セルビア大統領、西側諸国のBH
選挙への干渉を指摘(24日)

24日、ブチッチ・セルビア大統領(SNS党首)は、ベオグラードで開催されたセルビア進歩党(SNS)執行委員会において、駐BHの外国大使館がBH選挙、中でも特にRSにおける選挙に強く干渉しているとして非難した上、その証拠を選挙後に発表する旨発言した。

●BH民生相、クロアチアにおけるペリエシャ
ツ橋の建設に関し、国際裁判所への提訴の
依頼を発言(28日)

28日、オスマノビッチBH民生相は、クロアチアが進めている同国沿岸地方南部を接続するペリエシャツ橋の建設に関し、BHの利益保護を求めて国際裁判所に訴え出るようにBHのオンブズマンに依頼した旨発表。

●ドディックRS大統領とプーチン露大統領の
会談(30日)

30日、ドディックRS大統領は、露のソチにおいて同国のプーチン大統領と会談を行い、石油精製分野等経済関係を始めとする、RS・露関係につき協議を行った。また、プーチン大統領は、10月の国政選挙におけるドディック大統領の健闘を祈っている旨述べた。

3. 経済

(1) 経済政策、公共事業、

●BH連邦、外国直接投資額においてRSをリ
ード(6日)

6日、BH連邦政府は、BH連邦貿易省による、2017年のBH連邦に対する外国直接投資に関する報告書を採択。同報告書によれば、BHの投資総額のうち73.2%はBH連邦向

けで、同投資総額は5億6,900万KM(約2億9,100万ユーロ)であった。

●サラエボ=ベオグラード間高速道路に関す
る三者会合(21日)

21日、ベオグラードにおいて、ミハイロビッチ・セルビア建設・交通・インフラ相、ユースコBH通信・運輸相及びトルコのTasyapi社の代表により、サラエボ=ベオグラード間高速道路に関する会合が実施された。両大臣は、同プロジェクトが西バルカン地域全体に非常に重要である旨で意見が一致した。なお、同日、セルビアとTasyapi社は、同高速のセルビア内区間に関する枠組合意に署名を行い、2019年末から2020年初頭には建設を開始予定と発表。一方で、ユースコ大臣は、10月の選挙後に発足する新BH閣僚評議会が、BHの将来を左右する同プロジェクトについて、戦略文書を含めて推進していくことを期待する旨述べた。

(2) 経済協力

●UNDPとBH連邦政府、洪水復興に関する
1,330万KM(約680万ユーロ)のプロジェクトに署名(7日)

7日、ノバリッチBH連邦首相と、シナノグルUNDP常駐代表の間で、総額1,330万KM(約680万ユーロ)に上る、2014年の洪水からの復興の第二ステージと位置づけられるプロジェクトの合意文書に署名が行われた。本件は、EUがイニシアティブを取り、20市町村において200家族以上に家屋の修理乃至建直しを支援するもので、実施は、独及びオーストリアのNGOとの協力の下でUNDPが行い、BH連邦も110万KM(約56.2万ユーロ)を拠出している。

●EBRDによる「Vc回廊」の建設向け1億8,000万ユーロの融資署名式(12日)

12日、バレット欧州復興開発銀行(EBRD)運輸部長とペバンダBH財務相の間で、EBRDによる「Vc回廊」高速道路建設に対する1億8,000万ユーロの融資契約の署名が行われた。両名は、本署名及び「Vc回廊」の建設は、BHのみならず西バルカン全体に有益である旨述べた。

●EU、BHの地雷除去に110万ユーロを追加拠出(24日)

24日、EU代表部は、地雷除去関連の2件の新規プロジェクトに対する総額110万ユーロの拠出に関する署名式を行った。1件目は、BH全土の地雷残留地域の評価を支援するもので、ノルウェーのNGOであるノルウェー・ピープルズ・エイドとBH民生省、BH治安省の協力で実施され、もう一つは、BH地雷行動センター(BHMAC)の情報管理システムを改善するもので、UNDPにより実施される。EUは、BHの地雷除去に関してこれまでに4,600万ユーロを供与しており、2025年までの完全除去を目指している。

(3)民間セクター

●独Messerグループ、ドライアイス製造工場を稼働(14日)

14日、独のガス製造大手であるMesserグループは、BH北部ペトロボ近郊のソチュコバツにおいて、飲料、食品、金属工業向けドライアイス製造工場を新たに稼働させた。投資額は、6億KM(約3億700万ユーロ)で、これにより同社のドライアイス製造能力は2倍となる。

●COSCO Shipping社、サラエボに事務所を開設(25日)

25日、中国海運第一位の中国遠洋海運集団(COSCO Shipping社)がサラエボに駐在員事務所を開設した。同事務所長によれば、一带一路の影響でBH・中国間取引は増え続けており、今後は、同社が所有するギリシャのピレウス港のみならず、BHのネウム港も活用しながら、特にBHの木材や石材の輸出増に注力していく方針。

(了)